

〃 (風來丸)	3.5 HP. セミディーゼル機関	1隻	500.00		
コンクリート 混合機	7 切練 7.5 HP 電動機付	2臺	2600.00		
〃	5 切練 7.5 HP 石油發動機付	1臺	900.00		
甲板張解船		9隻	1800.00	富山縣新湊町 佐賀造船所	
解船		4隻	735.00	石川縣鳳至郡大屋村 瀧野淺右衛門外	
ハンド・ウキンチ	3 ton 扛 1 5 " 6 10 " 3	10臺	1100.00		
傳馬船		5隻	200.00	直營製造	
チェン・ブロック	10 ton 扛 3 5 " 2	5臺	910.00		27 ton 扛のものは 10 ton 捲ハンドウキンチ 2臺据付
手動式ゴライア ス・クレン	37 ton 扛 3 18 " 1	2臺	795.00	直營製造	18 ton 扛のものは 10 ton 捲チェンブロック 2臺取付
6. 工事執行者	石川縣				
7. 計畫設計者	土木技師 佐藤東次郎				
8. 工事監督者	土木技手 西村 義人				
9. 施行方法	縣直營 (昭和7年度 2箇年繼續) 昭和8年度				
10. 起工年月日	昭和7年10月16日				
11. 竣工年月日	昭和9年3月31日				

唐津港修築工事概要

(本文に就ては會員工學士谷堅君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

1. 箇所名並に工事種類

箇所：唐津港は佐賀縣北端玄界灘に沿へる唐津港の西南隅の一角にして北緯 33 度 28 分、東經 129 度 58 分の位置に當り朝鮮、滿洲國及び上海方面とは極めて近き距離にあり。

工事種類：港灣修築工事

2. 計畫概要、工事狀況

本港は明治 32 年 7 月開港場として指定せられ爾來逐年入港船舶の數及び貨物噸數の増加を見、且つ後方に所謂唐津炭田を控ゆると共に後方地域の交通關係の圓滑なると滿洲國の建設とを契機とし將來益を發展せんとする機運を示し來れるに従來港灣施設として見るべきもの殆ど缺如せるに鑑み昭和 7 年度より昭和 10 年度に至る 4 箇年繼續事業として、所謂匡救事業の名の許に國庫補助を受け修築工事を企劃せられ目下工事中なり。その計畫概要を述べれば次の如し。

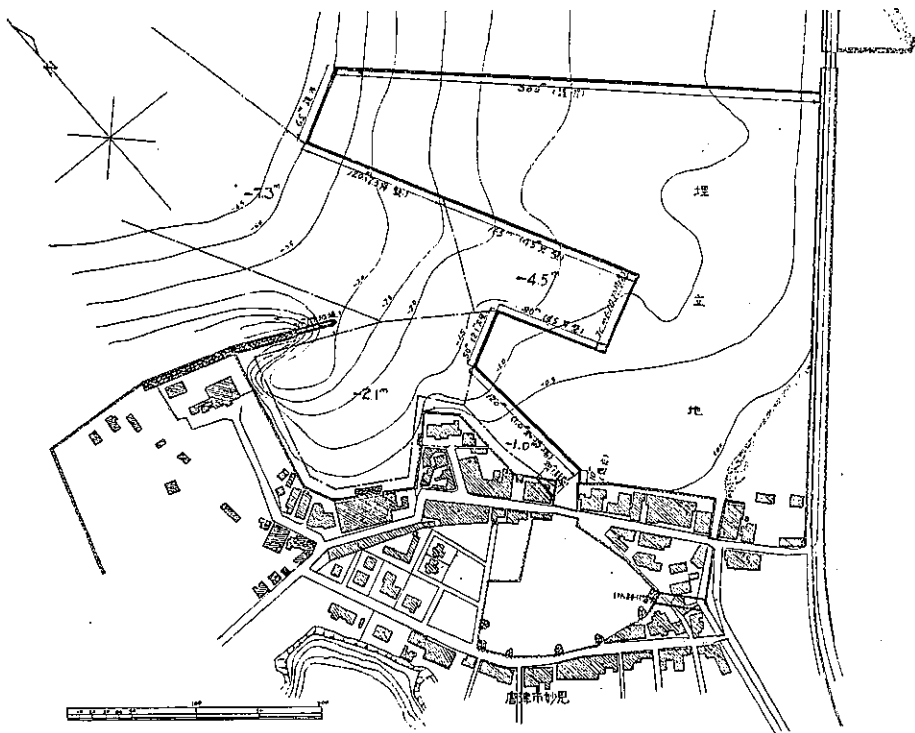
岸壁及び物揚場 (第 3 圖、第 4 圖参照)

現在本港東南隅の船入場入口正面東側に在來護岸と略平行して有效水路幅員 35m を存し、水深 1.0 m の 6 割法

第 1 圖 唐津港平面圖

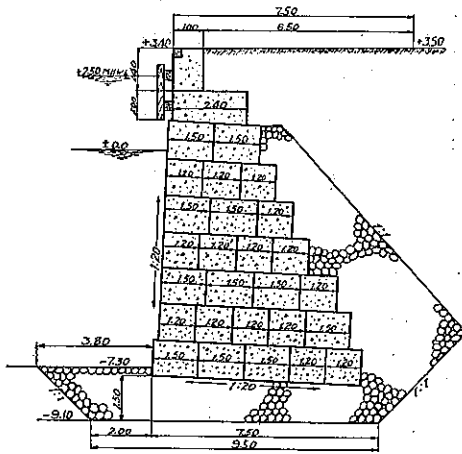


第 2 圖 唐津港修築工事一覽圖

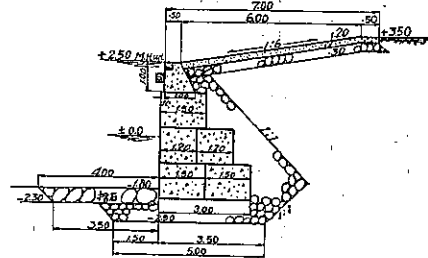


斜面舗装付物揚場を設け解船の繋留荷役をなさしむ。この物揚場北方に接し右折し水深 2.1 m 岸壁延長 50 m を築造し 100 ton 級船舶を繋留せしむ。上述岸壁より右折して延長 90 m の岸壁を築造し又この對岸に 165 m の岸壁を構築し共に水深 4.5 m を有せしめその間幅員 70 m のスリップを設け 700~800 ton 級船舶をして接岸荷役をなさしむ。このスリップ奥手は水深 1.8 m, 延長 70 m の 6 割法斜面舗装付物揚場を設け解船の荷役に資す。又 165 m 岸壁西北延長線上に水深 7.3 m, 岸壁延長 120 m を築造し 3 000 ton 級船舶をして接岸荷役をなさしめ更に本岸壁より右折し延長 65 m それより東方に向ひ延長 385 m の護岸を施設す。而して上述岸壁及び物揚場構造は地盤の良好なると共に一面匡救事業の目的よりして勞力を出來得る限り多く使役する 關係上コンクリート方塊を主體

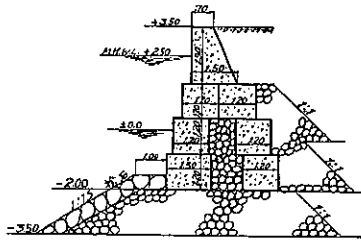
第 3 圖 7.3 m 岸壁



第 4 圖 1.8 m 物揚場

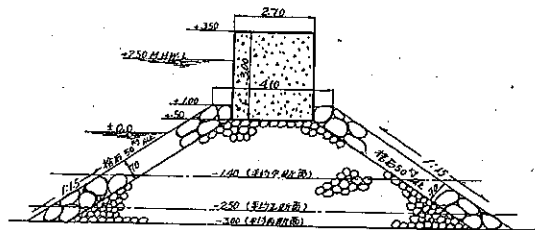


第 5 圖 第 1 護岸



第 6 圖 防波堤

横断面図



とする重力式擁壁の型を採れり。即ち厚 0.9 m~1.5 m の栗石基礎上に 1 箇重量 5 ton のコンクリート方塊を 2 段~7 段に疊積し, 上部は高 0.9 m 乃至 2.2 m の場所打コンクリートを施工す, コンクリート方塊は 1.2m×1.2m×1.5m とし工費の節減並に本縣特産品なるの故を以て, 一部所謂唐津火山灰を混入せり。その配合は容積に於てセメント 0.7, 火山灰 0.3, 砂 3, 砂利 6 の割合とす。方塊は沈設に手摺合掌起重機船を又陸上移動には汽力走行起重機を用ひたり。壁背部の裏込は壁主體の方塊が比較的小なるを以て充分多量の栗石を以て裏込し極力土壓の軽減をはかれり。

防波堤

現在本港の船溜として最も活用されつゝある内港の防波堤を 30 m 延長し波浪の侵入を減殺せしむ。而してその構造は波力比較的小なれば干潮面上 0.5m 迄捨石基礎を作りその上部は栗石コンクリートの場所打をなし天幅

2.7m. 天端干潮面上 3.5 m に達せしむ (第 6 圖参照)。

浚渫及び埋立

第 2 圖の如く物揚場岸壁前面船溜並に航路をそれぞれ相當水深に浚渫しこれ等浚渫土砂を利用し岸壁護岸等により圍はれたる面積約 80 000 m² を埋築し海陸聯絡施設の用地に資す。而して浚渫はその浚渫土砂の利用處分の關係上ポンプ式浚渫船に據るを適當と認め港灣工業株式會社をして請負はしめ主電動機 750 馬力、口徑 20 吋のポンプ式浚渫船を以て目下浚渫中なり、尙港内に轉在する岩盤は碎岩錐を以て打碎きブリストマン式浚渫船にて浚渫す。

3. 工 事 費

防波堤費	7 500 円	埋立費	49 030 円
岸壁費	227 850 円	機械設備費	59 770 円
物揚場費	26 800 円	雑工事費	7 000 円
護岸費	34 150 円	雑費	11 900 円
浚渫費	95 000 円	事務費	38 500 円
		合 計	557 500 円

4. 主 要 材 料

品 名	数 量	單 價
セメント	16 400 樽	4.30 円
火 山 灰	8 500 噸	0.80 円
洗 砂	7 600 m ³	1.20 円
洗 砂 利	15 400 噸	3.60 円
栗 石	19 700 噸	2.10 円

5. 主 要 機 械 器 具

品 名	性 能	数 量	價 格	製造, 工作, 販賣, 納入者名等	備 考
ブリストマン式浚渫船	B-B型	1	16 000 円	淺野物産株式會社	
汽力走行起重機	揚力 5 ton	1	11 850 円	同上	
浮合掌起重機 (手捲)	揚力 10 ton	1	5 460 円	三菱商事株式會社	
工業船		2	3 400 円		
運搬車		20	1 290 円		
コンクリート混合機	14 切練	1	1 100 円	臨海土木工業株式會社	
ポンプ式浚渫船	毎時 600 m ³	1	不詳		請負者使用

6. 工事執行者 佐賀縣

7. 計畫, 設計者 佐賀縣

8. 工事監督者 渡部彌作

9. 施行方法 直營: 浚渫及び埋立を除き他は凡て直營施工
請負: 港灣工業株式會社 [浚渫及び埋立を請負せしむ]

10. 起工年月 昭和 7 年 11 月

11. 竣工豫定年月 昭和 11 年 3 月